

「2019年7～9月期 中小企業 景気動向調査」 結果報告

—米中貿易摩擦激化で、業況DI、2四半期連続のマイナス—

一般財団法人しんきん経済研究所は、県西部地域の中小企業を対象に行なった「中小企業景気動向調査」の調査結果をまとめましたので、ご報告します。

1. 調査概要（調査／しんきん経済研究所、協力／浜松商工会議所）

調査時期	2019年9月1日～6日
調査対象	静岡県西部地域の中小企業 658社
回収状況	回収数 624社（回収率 94.8%）
調査方法	調査表を用いた面接聴取（遠州信用金庫、浜松いわた信用金庫に委託）

2. 調査結果

① 2019年7～9月期の業況

県西部地域の中小企業の業況判断指数（DI＝「良い」とみる企業の割合から「悪い」とみる企業の割合を引いた数値）は全産業ベースで－9.4となり、2019年6月の前回調査（－8.1）と比べて1.3ポイントの悪化となった。前回に引き続いての悪化となり、2四半期連続のマイナス水準となった。米中貿易摩擦の激化で、景況感が冷え込んでいる。

② 2019年10～12月期の見通し

次回の業況DIは3.2ポイント悪化の－12.6を見込む。

③ 主な業種別の動向

業種	調査数	業況DI			動向
		前期	→ 今期	→ 次期見通し	
全体	624	-8.1	-9.4	-12.6	米中貿易摩擦激化で、業況DI、2四半期連続のマイナス。
製造業	320	-12.8	-17.3	-18.9	製造業の更なる落ち込みにより、売上停滞感が強まる。
二輪車部品製造	48	-24.1	-25.0	-12.5	米中貿易摩擦の影響もあり、業況DI、3四半期連続のマイナス水準。
自動車部品製造	71	0.0	-15.5	-16.9	業況DI、2016年12月以来のマイナス水準に突入。受注に陰りがみられる。
機械部品製造	57	-10.5	-3.5	-10.5	業況DI、5四半期ぶりの改善。受注が安定している。
楽器部品製造	20	-14.3	-35.0	-35.0	業況DI大幅悪化、7四半期連続のマイナス水準。人手不足や設備の老朽化が課題。
繊維製造	25	-12.0	-25.0	-41.7	秋冬向けの生産が終了し、業況DI、2四半期ぶりの悪化。
製茶製造	16	-23.5	-18.8	-6.3	お茶のシーズンが終了し、売上・収益は大幅悪化。
製材製造	16	-12.5	-25.0	-37.5	業況DIは悪化し、2四半期連続のマイナス水準。
卸売業	71	-16.0	-12.7	-11.3	業況DI、3四半期ぶりの改善。ただし、仕入価格の上昇が収益を圧迫している。
小売業	60	-27.1	-18.3	-31.7	消費税増税前の駆け込み需要もあり、業況DI、4四半期ぶりの改善。
建設業	68	15.7	19.1	13.2	工事好調であり、業況DI、9四半期連続のプラス水準。ただし、人手不足は続く。
不動産業	45	4.4	8.9	0.0	業況DI、11四半期連続のプラス水準を維持。ただし、商品物件は不足。
飲食・宿泊・レジャー等	21	10.5	9.5	-14.3	観光シーズンとインバウンドで、業況DI、2四半期連続のプラス水準を維持。

本件のお問い合わせ先

一般財団法人 しんきん経済研究所 / 澤柳 / TEL053-452-1510

〒432-8036 / 浜松市中区東伊場2丁目7-1 浜松商工会議所5階